

成果の説明書

(氏名) 土谷岳史	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>日本 EU 学会の第 43 回研究大会の全体セッション (2022 年 11 月 5 日於東京経済大学) において「Democracy and Active Citizenship」と題する研究報告を行った。EU はユーロ危機や難民危機、そしてウクライナ危機への対応など近年、自身の正当性が問いなおされる機会を多く経験している。そのなかで大規模な市民参加による諮問会議を開催した。本報告ではこの Conference on the Future of Europe を Active citizenship の試みとして分析・考察した。本報告にもとづく論文は 2023 年度に『日本 EU 学会年報』に掲載予定である。</p> <p>研究員として所属する早稲田大学 ORIS-EU 研究所の 20 周年記念論文集『国連 SDGs と EU 統合の新展開—早稲田大学 EU 研究所設置 20 周年記念論文集』(仮題) への論文を寄稿した。「EU のロマ統合・包摂: SDGs の実現とマルチレベルの政策実施」と題した本論文では EU のロマ統合・包摂政策の実施枠組みをソフト・ガバナンスのハード化という面から分析した。本論文集は 2023 年度に出版予定である。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>上記論文集と関連する報告「EU のロマ包摂政策と文化・追悼の政治」を日本国際政治学会国際交流定例会 (2022 年 8 月 20 日) で行った。</p> <p>日本国際政治学会の研究大会で「グローバル・マイグレーション—主体・規範・実践の変容と再編」(部会 12) で討論を務めた (2022 年 10 月 30 日)。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>まだ流動的であるが、2 つの学会関連の原稿が予定されているので、それをしっかりと完成させたい。いずれもマイノリティの包摂に関するテーマであり、EU のロマ政策やこれまで研究してきた移民政策などのテーマの延長にあるものである。</p>	